

= 第28号 =

発行日:2010年11月1日

編集:立命館大学応化会事務局

編集責任者:金川 義孝

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学生命科学部・
薬学部事務室内

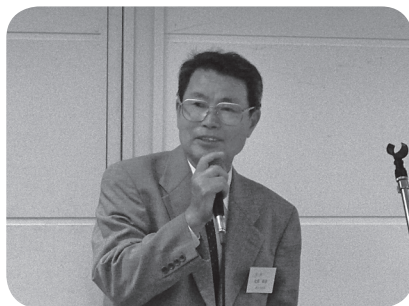
TEL. 077-561-2658

FAX. 077-561-2659

e-mail:oukakai@st.ritsumei.ac.jp

立命館大学 応化会ニュース

応化会の新展開

会長 北尾 舒彦
(昭和三十九年卒)

錦秋の候、会員の皆様におかれましては、各界各分野にて益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃は応化会の運営につきまして、何かと格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

去る六月二十七日に開催されました立命館大学応化会第十回総会において、皆様のご承認を頂き、引き続き応化会会長に就任することとなりました。

その一つは、応化会の組織に関する事項であります。我々が卒業した応用化学科と生物工学科が所属する生命科学部と薬学部が、平成二十年に誕生致しました。平成二十四年三月には生命科学部から、また、平成二十六年三月には薬学部から、一期生が卒業されました。これらの学部から卒業された方々が、将来結成され

るであろう新同窓会と我々応化会との関係をどうするかという問題です。今回の総会では、次の通り決定致しました。

① 現在、生命科学部・薬学部で議論が進んでいる新同窓会(平成二十三年春発足予定)に応化会が合流し、新たな同窓会活動を展開する。

② 新同窓会の名称および詳細については生命科学部・薬学部同窓会準備委員会と調整をすすめる。

③ 今後の取り扱いについて、応化会幹事会にご一任いただく。

そして、もう一つは、会費に関する事項であります。

現在の会費は、平成十三年三月以降の卒業生が終身会費「一万円」で、それ以前に卒業された方は年会費「二千円」となっています。年会費を三年連続完納された方には、過去には名簿を、最近は新学部の資料などを無料配布するなど、一定の配慮をしております。今年度の会費は今年度で終了とし、今年度の会費を特別に終身会費とみなし、以後は終身会費に統一することにいたしました。

なお、寄付金については、従来通りで変わりませんので、よろしくご協力の程お願い致します。

これらの総会決定事項もふまえて、今期の活動目標は次の二つです

一、来年春にも結成されるであろう生命科学部・薬学部の新同窓会への合流を円滑にすすめること

二、応化会活動の活性化

活性化するには、会員同志が会う機会をもっと増やす必要があると考え、次の三点に力を入れたい。

① 卒業年度毎の研究単位単位同窓会開催を奨励する。

② 現在、実施または企画している健康セミナーやゴルフ、ハイキング、釣り天狗クラブ、温泉研究会について、広報面でもっと支援する。

③ 新しい事業として、例えば、名刺交換会、異業種交流会、ボーリング大会など、皆様の御意見を取り入れながら検討する。

これらの目標を達成するために新役員の皆様方と共に努力してまいります。何卒、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

近況報告

生命科学部 生命科学系 I

前期学系長 小島 一男



応化会会員の皆様、お元気で
過ごしのことと思います。

今年度、生命科学部（応用化学科、生物工学科、生命情報学科、および生命医科学科）と薬学部（薬学科）は開設三年目を迎え、一方、理工学部応用化学科と化学生物工学科では四回生が最終学年となっています。まず、教員の異動について報告します。昨年度、生物工学科の吉田真先生が定年退職され、また応用化学科の池田慎吾、生命医科学科の原貴史、および薬学科の武内総子の各先生が退職されました。今年度の新任として、生命医科学

科に一名、薬学科に五名の先生が着任されました。

さて、生命科学部の三回生は各学科で多数の専門科目を受講する中、後期の卒業研究室配属（卒研配属）や自身の進路について関心が高まっていると思われます。

応用化学科では、三回生前期に、学科のカリキュラムの特色の一つとなつての実験の選択受講を初めて実施し、学生は、材料化学系の実験（材料化学実験1および2）、あるいは生命化学系の実験（生化学実験および分子生物学実験）のいずれか一方を受講しました。

卒研配属の方法について、両学部では昨年度から検討を始め、今年度その方針を決定しました。それは、従来、応用化学系（理工学部応用化学科および化学生物工学科）で実施されてきたように、両学部の協力共同体制に基づき、一定数の学生が、自身の所属学科で

なく両学部の他学科の教員の下で卒業研究を行うことができるという内容です。教員は卒研配属の具体的作業を八月から開始しました。

冒頭でも触れましたが、理工学部応用化学科と化学生物工学科では最終学年の四回生が卒業研究に取り組んでいます。実は、私は、

本年度前期に四回生配当科目の講義を担当しましたが、理工学部のこの科目の講義としては実質的に最後であつたため、感慨を覚えました。七月に行われた大学院内進学入試では、四回生以上の約六十名が本学理工学研究科創造理工学専攻応用化学コースへの進学を決めています。

次に、大学院の将来構想についてですが、現在、理系では理工学研究科のみのところ、二〇一二年度に、理工学研究科、情報理工学研究科、および生命科学研究科（いずれも仮称）の三研究科を設置すべく準備が進められています。このうち生命科学部の四学科が関係するのは生命科学研究科であり、生命科学研究科の新しい入試方式についても議論されています。

以上のように、今年度後期には、生命科学部で最初の卒研配属、研究科設置の課題があり、加えて、

生命科学部長選挙、薬学部長選挙、および本学総長選挙が予定されています。

以下では、貴重な誌面をお借りして、別のことについて書かせていただきます。

立花隆・利根川進「精神と物質」（文春文庫）、この本は、生物工学科の特別入試合格者入学前教育の推薦図書となつていますが、これを読みますと、利根川先生のノーベル賞の対象となつた研究が、スイスのバーゼルにある免疫学研究所で行われたことが書かれています。

私は、二〇〇七年の六月末から七月初めにかけて、フランス東北部のストラスブールで開かれた国際ガラス会議に出席しました。学会の合間に、そこから電車で南下してバーゼルに行き、ドイツ国鉄の電車に乗り換えフライブルクなごを通つて北上し、ドイツのケールというライン川対岸の町からストラスブールに戻るといふ、ライン川の西東をぐるっと回る小旅行をしました。バーゼルは三国の境の、高所にあるのか坂の多い町で、ライン川が崖のずっと下を水量豊かに流れていました。

ところで、無機化学の教科書に出てくる水素原子の可視域スペク

トルを説明するバルマー系列の式ですが、この式の発見については、朝永振一郎「量子力学I」（みすず書房）や佐藤勝彦「量子論」を参照しむ本（PHP文庫）にやや詳しい解説があり、バルマーは、バーゼルの高等女学校の教師をしながら、一八八五年にこの偉大な発見をしたとのことです。私がバーゼル駅近くのインフォメーションコーナーで購入した市街図には、この学校に関することは残念ながら見つかりませんでした。

別の話になりますが、レイチェル・カーソン「沈黙の春（新潮文庫）」に、カーソンがウツズホール海洋生物研究所で一時期研究したとあります。ここは、下村脩先生がノーベル賞の緑色蛍光タンパク質の仕事をしたところであり、またこの研究部長であつた日本人の方が確か今春の叙勲者名簿に載つていました。このようにいろいろ関連がでてくると、私のような門外漢にも興味がわきます。

バーゼルやウツズホール海洋生物研究所のことから、何か「科学地理学」とでもいふべき分野が非常に大事ではないかと最近思えます。最後に、会員の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

第十回総会 開催報告



長からの挨拶ならびに支部活動報告、さらに校友・父母課の課長村上吉胤氏よりご挨拶をいただいた後、議長に小林亀造氏を選出し、議事が進められた。

総会での議事内容

一、松田幹事より、前回総会以降の応化会の経過および前回総会議事録の説明が行われ、承認された。

二、過年度（二〇〇七、二〇〇八年度）の事業報告ならびに決算報告が花崎知則幹事より行われた。

三、篠原長政企画運営委員長、金川義孝応化会ニュース編集委員長、白石晴樹名簿管理副委員長、荒木武彦地域別活動推進委員長より、委員会報告がそれぞれ行われた。

四、花崎幹事より二〇〇九年度事業報告、澤村精治幹事より二〇〇九年度決算報告が行われ、岡本朗監査による監査報告の後、承認された。

五、会費に関する件について、松田幹事より前回からの経過が報告された。その後、会費検討委員会および幹事会での審議内容が、会費検討委員会の岸要委員長により報告され、会費は終身会費（一万円）とし、二〇〇〇年三月以前の卒業生については、二〇一〇年度の年度会費二千元を終身会費とみなす（二〇一一年度以降に納付された場合も同等とする。）との提案がなされ、審議の上、承認された。

六、役員選出について、松田幹事より幹事会における審議経過が説明された。さらに、上原正巳役員選考委員会委員長より、役員選考委員会での審議経過原案が説明された。審議の上、会長、副会長、顧問が原案通り承認され、会計監査が選出された（詳細は別紙参照）。その後、名誉会員、各種委員会委員長、常任幹事、庶務幹事、および会計幹事の氏名が紹介された。

七、花崎幹事より二〇一〇年度事業計画、澤村幹事より二〇一〇年度予算案についての提案、説明が行われ、承認された。

八、今後の応化会活動について、花崎幹事より応化会幹事会なら

びに生命科学部・薬学部同窓会準備委員会での経過報告がなされ、以下の三点について提案された。
・現在、生命科学部・薬学部で議論が進んでいる新同窓会（二〇一一年春発足予定）に応化会が合流し、新たな同窓会活動を展開する。
・新同窓会の名称および詳細については生命科学部・薬学部同窓会準備委員会と調整をすすめる。
・今後の取り扱いについては、応化会幹事会に一任する。

以上の三点について、質疑応答の上、承認された。

九、北尾新会長ならびに新役員の紹介が行われた後、北尾新会長の挨拶が行われ、閉会した。

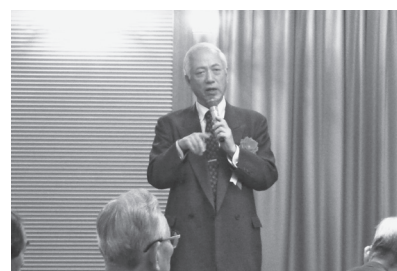
講演会

総会終了後、同会場にて講演会が行われた。まず、本学生命科学部応用化学科教授で生命科学部副学部長の岡田豊先生より『生命科学部・薬学部近況報告』が行われた。次に、本学薬学部薬学教授で薬学部長の北泰行先生により、『明日の創薬：有機化学の力で再び独自の低分子医薬を創生するチャンス到来』と題した講演が行われた。

参加者は六十五名で、講演後は活発な質疑応答が行われた。

懇親会

講演会終了後、会場を同ホテル六階「ナポリ」に移し、五十三名の参加者により懇親会が開催された。途中、本学理工系四学部ならびに生命科学部・薬学部の紹介DVDも上映された。二時間あまりにわたって和やかに親睦を深めた。



本年六月二十七日（日）午後一時より、京都タワーホテル九階「飛雲の間」に於いて、第十回総会が開催された。五十九名の会員が出席し、各種委員会等の報告、ならびに二〇〇九年度事業報告・決算報告、二〇一〇年度事業計画・予算、役員選出、さらにかねてよりの懸案であった会費に関する件および今後の応化会活動の件についての審議が行われた。松田十四夫幹事の司会で開会し、まず過去三年間に逝去された会員に対して黙祷を行った。続いて、北尾舒彦会長の挨拶、仲宗根宗督関東支部長および宮川金二郎中国・四国支部

明日の創薬

「今こそ有機化学の力で

独自の低分子医薬をつくる

チャンス到来」

立命館大学薬学部教授・学部長
大阪大学名誉教授

北 泰 行

はじめに

二〇〇八年に阪大薬学研究科を
定年になる迄の三十六年間と、新設
の立命館大学薬学部での二年余の
間に行った有機合成からアプロ
チした創薬研究を振り返りながら、
今、強く思っていることを紹介する。

一、生物活性天然物の全合成研究

からのアプローチ

①有機化学的全合成研究からのア
プローチ

大学での研究の大部分は、新反
応や新反応剤の開発とこれらを応
用する生物活性天然物の全合成の
達成である。目的の反応が進まな
い時には、その解決が新規反応や
反応剤の開発に繋がり、研究者育
成に適したテーマになる。真の意
味での創薬研究は、全合成達成後

かつて驚くべきスピードで進展す
る。企業から全合成を依頼されて
行った研究は、フェーズⅡ（臨床
試験）を経て、上市寸前迄進んだ
ことがある。

二、独自に開発した薬物評価系に
よるアプローチ

薬理学研究者が独自に開発した
新規薬物評価系（疾患モデル）を用
いての共同研究は、極めて効果的
である。合成研究者は自分の力で目
標とする薬物活性を強めながら、副
作用を減らすことが可能になると、研
究に非常に興味が湧くので、行い得
る薬物評価は自分達で行うか、評価
結果と一緒に検討しながら研究を進
めることが大切である。我々は阪
大微生物病研究所と阪大医学部の
先生方との共同研究によって自然
転移阻害物質を探し出した（薬物
活性と副作用の分離に成功）。しか
し、癌の自然転移の人による臨床実
験は大変難しいので、まず生物実
験用試薬として販売した（ナード
研究所で合成し和光純薬より販売）。

三、独自の低分子化合物を用いる
既存薬物のアナログ合成によ
るアプローチ

①既存医薬品のアナログ合成
既存医薬品をリード化合物とす
る合成展開は、薬効が確実で、そ

の医薬品のもつ問題点が明確な
で、一般に先行品より優れた医薬
品になる。日本で開発された抗脂
血薬、プラバスタチン（商品名メバ
ロチン）の必須構造を残し、ヘキ
サヒドロデカリンをインドールや
ピロロールへの変換により、フルバ
スタチンナトリウム（商品名ロー
コール）やアトルバスタチンカル
シウム（商品名リピトル）とし
て、さらに優れた薬になっている。

②クロスカップリング反応による
ピアリール類、ヘテロピアリー
ル類の合成

ピアリール類は、近年、製薬業
界および関連分野において注目度
が高まりつつあり、抗真菌薬、抗
炎症薬、抗リウマチ薬、抗腫瘍薬お
よび血圧降下薬など広範囲にわた
り効果を示す化合物群である。こ
れらの合成には、日本で生まれた
革新的技術、クロスカップリング
反応が広く用いられている。しか
し、この反応には、高価なレアメタ
ルであるパラジウムやニッケルを触
媒として使うことが大きな問題で
あった。最近我々は、レアメタル
を用いないヨウ素反応剤でクロス
カップリング反応を起こすことを発
見すると共に、触媒の使用に成功
し、グリーンサステイナブルな方
法として世界の注目を集めている。

③医薬品より開発期間が短い、機
能性有機分子創生

レアメタルを用いない選択的ク
ロスカップリング反応によりチオ
フェンやピロロール類よりポリチオ
フェン、ポリピロロール、ポリチオ
フェンピロロールなどの優れた有機
EL等、有効な化合物の合成に成
功した。現在、企業との共同研究
による商品化を目指している。

おわりに

独自の基礎研究に集中し、しか
し絶えず新しい情報にはアンテナ
を張りながら、試行錯誤を続けて
いれば、思いもよらない展開が生
じてくるものである。最近の創薬
研では、生物製剤、テラーモード、
予防薬、再生医療がもてはやされ
ているが、医薬品のように高度な
知的能力を必要とする機能性有機
化合物創生には、今こそこれ迄以
上に有機化学の力が重要になるも
のと確信している。自分が化学を
楽しめ、物づくり、薬づくりを目
指すことで人が育ち、そして彼ら
の中から、いつか日本独自の大き
な成果を生み出す逸材が出てくる
ことを夢見ている。

（本稿は、去る六月二十七日の第十
回総会での講演会の内容をまとめ
たものです。）

定年退職にあたって

吉田 真



んだりした。授業料も安く、学生と教員の距離も今より近かったような気がする。古き良き時代の思い出である。

私の担当はおもに一般教育科目と教職科目であり、卒業研究は担当しなかった。その代わりに菊池先生から私に押し付けられた（と言えば語弊があるが）のは、探検部の部長であった。部員たちは、急流下り、流水乗り、中国の巨大洞穴探査、アマゾン川全行程流下など、次々とんでもない遠征計画を持ってきた。ひとつ間違えると命に関わるものばかりである。私が部長をやっていた間にひとりも死者が出なかったのは、奇跡的と言えるのかも知れない。まあ、おかげで退屈はしないで済んだが。

衣笠時代は牧歌的な時代であった。学部も、当初は法・経・営・産・文・理の六学部で学生も一万八千人ほど。他学部の先生もその多くは顔見知りで、よく一緒に飲んだり遊

を持ち、クモの種類や数を調べることでその場所の自然の豊かさを測定する方法の開発などの研究を行った。

生物多様性保全は焦眉の課題とされているが、地球全体で何種の生物がいるのかさえ分かっておらず、未記載種は既知種よりはるかに多いと推定されている。どんな生物がいるかも分からないのにそれを守れと言うのには無理がある。クモ類では、日本でも新種が続々と見つかっている。退職していくぶん暇ができたので、各地に採集旅行に出かけ、蜘蛛学会の懸案であった都道府県別のクモリストの作成や新種の発見に尽力しようと思っている。

ところで、三十年前に比べて、本学の研究環境は飛躍的に良くなった。皮肉なことに、大学が立派になるほど、大学内の風通しが確実に悪くなったような気がする。これを何とかしないと、本学のこれ以上の発展はないだろう。



吉田真先生の

ご定年退職にあたって

元理工学部生物工学科・
現環境システム工学科教授

遠藤 彰

吉田真先生は、二〇一〇年三月末日をもって定年により、ご退職になりました。

先生は、一九七七年、理工学部助教として着任され、一般教育生物学と生物学実験を担当され、九四年、改組・新設された応用化学系生物工学科の教授、さらに生命科学部の教授を歴任され、学部の専門教育にも貢献されました。

吉田先生は、京都大学理学部動物学教室の出身で、同大学院で動物生態学を専攻され、主に溪流沿いに生息するクモ類（オオシロカネグモとドヨウグモなど）の研究をされてきました。

私の三年上の先輩であり、思うにたいへん長いおつきあいになります。「吉田先生」などと呼ばせていただくのは、たぶんこれが最初で、いささかきこちない感じがします。たださかえ日ごろ、皮肉っぽい発言で、先生を悩ませ苛立たせていた私ですから、「ええかげんにせい」と怒鳴られそうです。

吉田先生は、何事につけ真面目で（ここは皮肉・冗談抜きで！と念を

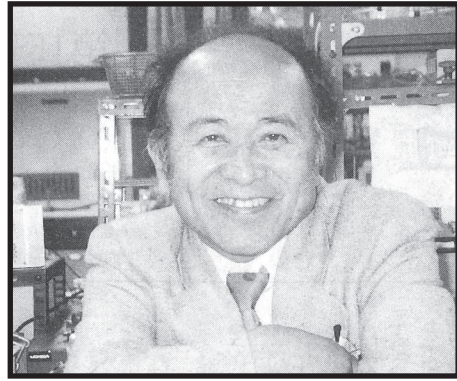
押さなあかんとところが、私の限界ですが）、とりわけ本学の一般教育（基礎教育）の、それこそ全般にわたって、途方もない尽力をいただきました。詳しくはとも書ききれませんが、九〇年代以降は、びわこ草津キャンパス移転とほぼ並行するかたちで、一般教育カリキュラムの「大綱化」の流れがあり、そのなかで学部専門教育と基礎科目のデザイン・システムの改革、基礎専門科目としての生物科学を設置するについて、先年ご退職された立木先生ともども、たいへんな努力を重ねてこられました。また、移転後も、基礎教育センター長を努められ、キャンパスが分かれて基礎教育の担当体制の困難をきわめる事態に際して、面倒な調整と維持に尽力されました。本学の基礎教育の整備は、吉田先生のご努力なしには、ありえなかつたと、申し上げよう。

私にとっても、それはやつと少し懐かしく感じられるようになりましたが、それこそ振り返る間もないくらい、あつという間に通り過ぎた時間でした。

ともあれ、大過なく、しかし相当な疲労も蓄積した三〇余年、ほんとうにお疲れさまでした。非常勤講師として継続していただいておりますので、さっぱりとはしていませんが、少しは余裕をもって、今後のお仕事、健やかにゆつたりと追突されますよう、お祈りいたします。

北村 清先生

のご冥福を心からお祈りします



北村清先生を偲んで

澤村 精治

(昭和四十九年卒)

北村清先生が二〇一〇年一月二十七日にご逝去されました。北村先生は一九五七年から三年ほど鈴木啓三先生の物理化学研究室の助手として活躍されたあと、旭化成工業に二十年あまりご勤務され、再び物理化学研究室に教授として戻ってこられました。旭化成では分離膜の草創期の研究開発を指揮されてきたこともあり、大学では分離膜の機能を物理化学的に説明しようと、様々なアイデアを持ち込んで学生と一緒に研究を楽しんでこられました。また学生か

らの就職ほかよろず相談ごとには親身に对应いただき、いつもにこやかに「よっしゃよっしゃ、わしにまかせとけ。」とのお言葉をいただいたのを思い出します。安心して相談できる先生でした。研究室のコンパになると、会場は当然のごとく先生の御自宅になり、お世話になった卒業生は多数いたはずですが、しかもなぜか他の研究室からの参加も無視できない数だったと記憶しています。先生のお人柄が偲ばれます。

一九九七年三月に立命館大学を御定年退職された後も引き続き非常勤で講義を担当され、先生曰く「猿にもわかる物理化学の講義」を目指して苦心しておられました。数年して非常勤も御定年になり「ようやく自由の身になった」とおっしゃっていたのですが、それからまもなくの訃報で大変残念です。昨年には奥様を亡くされ、少し寂しそうにしておられました。ご病気の様子もなく毎日お元気に過ごされていたので、訃報をお聞きしたときには大変驚きました。もうこの世におられないのは大変残念ですが、「よっしゃよっしゃ」とにこやかに話される北村先生のお顔を思い出しながら、ご冥福をお祈り申し上げます。奥様の元でこゆつくりとお休みください。



支部だより

「學然後知不足」・

学びて然る後(のち) 足らざるを知る

(西園寺公望)

関東支部長 仲宗根 宗 督 (昭和三十五年卒)



東京校友会活動が牽引
校友会活動に
参画してから、
二十一年余にな
りますが、文化
活動、各種イベ
ント等々が開催されており、応化会関東支部の皆さん方にも積極的に参加して校友の輪を広げていただき、共有していくべく「模索」しているところです。

立命館東京キャンパスの活用
東京駅に隣接しているサピアタワービル内の施設を借用させていただいており、ので、応化会関東支部幹事会等を有効裏に行なっております。

立命館東京キャンパスの活用
東京駅に隣接しているサピアタワービル内の施設を借用させていただいており、ので、応化会関東支部幹事会等を有効裏に行なっております。

応化会関東支部独自の活動が課題
新人歓迎会や講演会、諸活動の開催が実施されていない現状を反省し、その解決に努力することが課題となっています。

期待大のライフサイエンス
生命科学部・薬学部分野の将来は、期待の

分野であり、社会的役割の担い手として後輩への期待も大であり、その分野への活発な支部活動をめざして参ります。

學祖西園寺公望公を墓参

JR中央線武蔵小金井駅に程近い都立多磨霊園に公望公のお墓があり、校友の皆さん方と散策を兼ねて墓参しております。

同霊園には著名な政治家、作家、俳優のお墓があり、平櫛田中(彫刻家)も埋葬されております。

「いまやらねばいつできる

わたしがやらねばだれがやる」

(二〇七才まで生存 文化勲章受章)

来年度(二〇一一年)は支部総会を開催

七月十五日(木)立命館東京キャンパスに

て関東支部幹事会を開催し、支部総会開催

に向けて検討を行いました。その時、六月

二十七日京都で開催された応化会本部総会

の報告と東京校友会開催の諸行事への参加

要請を支部長から要望した次第です。

関東支部へのご支援、ご協力のほどよろし

くお願いいたします。

関東支部の現状の報告といたします。

応化会との

つながりを

藤本 一夫
(昭和五十二年卒)



四月十七日、いつもご案内をいただいている応化会ハイキングに欠席ばかりでは申し訳ないと思いつつ参加することにしました。

朝から晴天で集合場所へ行つてみると、なんと私は最若手！日頃職場では年長の重さを出さねばと気を張っていますが、このグループでは何と気楽な新参者で過ごすことができました。

摂津深谷までたどり着くのは、結構ハードな登攀ルートやアップダウンの連続で最終の運動公園が見えたときにはホッとしました。

しかしながら、参加されたご老体方(失礼！)はなかなか元気でマイペースを崩さず、昔話に花を咲かせておられました。

バスで高槻駅まで到着し、これで終わりかと思つていたところ、お疲れ会と称して駅前で生ビール、餃子、焼きそば等…これもなかなかの健康ぶり、ほんとうにお疲れ様でした。

それから一週間後の四月二十四日、年齢も五十半ばを過ぎると昔が懐かしくなります。久しぶりに五十二年卒の化学科同窓生十名ほどで京都に集いました。

夜の祇園へ繰り出して、カラオケ三昧。九州から駆けつけた友人は酔いつぶれていましたが…再会を約束して深夜に解散です。

また、それから二ヶ月後、応化会総会に参加させていただきました。五十二年卒生はほとんど参加していませんが、あと五年、十年先には参加者も増える信じ、五十二年卒生と応化会のみなさま方とのつながりができればと思つています。

会員だより

昭和二十年(一九四五年)
学徒動員中の状況

桂 茂生
(昭和二十三年卒)



昭和二十一年は、わが国が戦争に負けた年である。その年に入学した化学工業科(現在の応用化学科の前身)の学生は、当時の軍港京都府

舞鶴市の海軍火薬廠に学徒動員され、ここで終戦を迎えた。機銃掃射や爆撃を受け苦勞した級友も、八十路半ばとなり語り合うことも少なくなってきたので、当時の状況を思い出しまとめた次第である。

昭和二十年三月一日に合格通知を受けたものの、十日には東京大空襲で十数万人が焼け出され、引続き主要都市への爆撃、沖繩での死闘、特別攻撃隊の出撃など激戦が続いていた。内地では十三歳以上で兵役に服していない者は、すべて軍需工場や食料増産にかり出され、入学を望んでいるものの、それどころではなかった。

五月か六月初め頃だったと思う。学校から動員先が火薬廠に決定したので京都駅に集合するよう連絡がきた。室伏教授引率のもと空襲警報発令中急ぎ列車に乗り、JR小浜線の松尾寺駅で下車し火薬廠に向かった。廠内は山あり谷あり軌道もあり広い敷地だ。教授から入学式も兼ねた挨拶があり早速あすからの作業配置が決まった。原料薬品班・火薬調合班・火薬詰込班などと、防護のための防火班・搬出班など担当が決まり、灯火管制のもと緊張し蚊帳の中の床にもぐり込んだ。

翌朝作業場に張切って出勤したところ原料薬品がない。在庫もなく入荷予定も未定とのこと。火薬を作るべくやってきたのに作れないのだ。今後の対策協議中に警報発令され、

同時に米軍艦載機による機銃掃射が始まった。防空壕を伝い遠い山裾の避難所に走り込み一息ついた。翌日からはそのはいかなくなつた。私達防火班の数名は筒先係に任命され作業場近くの防空壕で待機することになった。ある時突然艦載機が来襲した。最初山向こうを攻撃していたが急旋回しこちらに向かつてきた。必死で防空壕に飛び込み激しい爆音が通り去るのを待っていた。その時壕の上になにかが落ちたような音がした。波状攻撃の合間に探したところ

弾が見つかった(写真参照)。普通ならば壕の天井を貫くところが、なにかの拍子で横になつて落ちたようだ。九死に一生を得たと神に感謝している。その後も屋は艦載機がよくやつてきた。

夜はここ舞鶴がB-29爆撃機の本土空襲の航路に当たつており、時には一晩に二度三度と来襲してその都度避難した。暗闇の中数十機の編隊で空全体を覆うような爆音と地鳴のもと、爆弾がいつ落ちてくるか不安な気持ちは、二度と味わいたくない恐怖の時であった。

毎朝眠い目をこすりながら出勤したが、火薬を調合した記憶はほとんど無い。待避に多くの時間を費やした。八月になると米軍が新型爆弾を開発したので従来のカーキ色の服は危険、白服を着用するよう指示があつたがそんな服はない。暑い時でもあがり上着を脱ぎ白シャツ一枚で作業し

た。今にして思えば無謀なことをしたものだと思われている。

十五日は玉音放送を直立不動の姿勢で聴いたが内容が聞き取れなかつた。そのうちどこからともなく、わが国が負け、戦争が終わつたらしいと伝わってきた。当時は国に命を捧げることがよしとされ、また戦況はよくないがいずれわが国が勝つとの信念を持っていたので、全く寝耳に水であった。しかし敵機が急にこなくなつたので、信念も緊張も徐々にうすらぎ敗戦をハダで感じてきた。

するとわが身の今後のことだ。ソ連に近いから連行されるのでは、米軍に強制労働されるのでは、また学校はなど真剣に話し合った。その後動員解除、自宅待機の指示があり、不安の中にも安堵の気持ちで舞鶴を後にしたが、この車中でもソ連への連行がもつとも大きな話題であった。

その後十月頃から学校は開校されたが、厳しい食糧不足や激しいインフレに追われ、学業よりアルバイトに精を出した。気がつけば卒業が間近に迫つており就職活動に苦勞した。このあたりについて、いづれまとめたたいと考えている。



からだの中のくすりの動き

薬学部薬学科 藤田卓也



普段、風邪をひけば風邪薬なるものを服用し、熱が出たから頭痛がするからと解熱鎮痛薬を服用し、症状が治まれば「くすり」がよく効いたということで、それ以上は特に気にすることもなく多くの人は「くすり」と付き合っているのではないのでしょうか。ところが、年齢を重ねるにつけ、メタボリックシンドローム予備軍の一員となり、高血圧だ、動脈硬化だ、糖尿病だということで、その治療薬

を服用するに至り、「このおくすり(A)とこのおくすり(B)は毎朝食後に一錠ずつ飲んでくださいね。」、「このおくすり(C)は朝

を服用している例は、七十歳を超えた方々が医師から処方してもらうおくすりの種類としては決して特殊な例ではありません。これももって我が国の薬漬け医療の実態を暴くとかいうつもりはさらさらなく、健康で健やかな老後を通じてのための対症療法としてある程度は不可避な側面もあるかもしれません。

が、基本的にはどのおくすりもその効果を発揮させるためには、血液中の有効成分(主薬)の濃度をある一定の範囲内に維持する必要があります。そのため、特にいわゆる生活習慣病の治療に使用されているおくすりは、指示通りに飲み続ける必要があります。先にも書きましたように体の中(血液中)で主薬がどのように増加し減少していくのかというパターンはある程度規定されており、指示通りに飲み続けると治療に最適な血液の主薬の濃度を維持できません。乱暴な書き方をすると、飲んだり飲まなかったりすること

現代の医療技術や医薬品開発の進歩は、国民の健康に対する関心の高まりとともに、生活習慣病に対する薬物療法を格段に向上させております。薬物療法はあくまでも治療を受けている方が、きつかりと指示通りにおくすりを飲むことを前提に行われておりますので、まずはおくすりをしっかりと指示通りに飲むことを心掛けていただきたいと思えます。もちろん、おくすりを飲むだけでなく、食事に対する注意や適度な運動も必要なのはいうまでもありません。その上で、何か問題が出てきた場合は、医師は適切な治療計画を再考することになります。そうでなければ、くすりが適当でなかったのか、患者の方がしっかりとおくすりを飲まなかったからなのか判断できなくなります。おくすりの飲みかたやその指導(服薬指導・管理)も薬剤師の重要な仕事の一つであり、これからの薬剤師に求められる資質の一つですが、このお話につきましてはまた次の機会にご紹介できればと思います。

と晩の食後に一錠ずつ飲んでくださいね。」「これ(D)は朝食後の食後に一錠ずつですよ。」「このおくすり(E)は寝る前に一錠飲んでくださいね。」「これ(F)は貼る心臓のおくすりですから一日に一回おなかのあたりに貼っておいてくださいね。」「こんな沢山くすりを飲んでいる人がそんなにいるものかとか、そんなたくさん飲むの違うくすりを出されてちゃんと飲めるのかとか、いろいろ疑問に思う方が多いかもしれません。ご家族や近い方に該当者がいない場合にはこうした疑問は当然かもしれません。ご自身やご家族に該当する方がおられる場合には、前記のような例に同意いただけるのではないのでしょうか。先に書き

ただし、なぜこうした飲み方の違っておくすりがあるのかとあるのかに理解したく必要があるかと思えます。飲んだおくすりは腸から吸収された後、いつまでも体の中にいるわけではなく、時間とともに肝臓で分解(代謝といえます)されて胆汁から出ていくか、おしっことして排泄されます。早く体の外に出ていくおくすりは一日に何度も飲まなければいけませんし、長い間体に留まっておくすりは一日一回飲むだけで済むわけです。一日一回であれば、朝食後に飲むだけでよいので、飲み忘れも少なくなると考えられます。近年開発されているおくすりは、ほとんどが一日一回もしくは二回飲むことで効果が発揮されるように作られております。

細かなことには言及しませんが、基本的にはどのおくすりもその効果を発揮させるためには、血液中の有効成分(主薬)の濃度をある一定の範囲内に維持する必要があります。そのため、特にいわゆる生活習慣病の治療に使用されているおくすりは、指示通りに飲み続ける必要があります。先にも書きましたように体の中(血液中)で主薬がどのように増加し減少していくのかというパターンはある程度規定されており、指示通りに飲み続けると治療に最適な血液の主薬の濃度を維持できません。乱暴な書き方をすると、飲んだり飲まなかったりすること

副作用が出る危険性があります。(本稿は、二〇一〇年二月二十一日に行われた第四回健康セミナーの講演内容をまとめたものです。)

企画運営委員会報告

委員長 篠原長政

(昭和四十三年卒)

会員の皆様の親睦を目的とした

「ゴルフ・懇親会」、「ハイキング」および「釣り天狗クラブ」に続き「温泉研究会」が木村碩志様ならびに石井猛様にお世話いただき、いよいよ立ち上がります(応化会ニューズ27号五ページおよび本号温泉研究会創立総会(ご案内参照))。

初回の開催案内は、以前のアンケート調査をもとに事務局から差し上げます。新規にご登録されま

第四回健康セミナーの開催

平成二十二年二月二十一日(日)

京都タワーホテルにおいて「からだの中のくすりの動き」と題して、立命館大学薬学部教授(分子薬物動態学研究室)の藤田卓也先生にご講演いただきました。薬の飲み

合せで苦しんだ人の話を聞いたこともあつて真剣に拝聴致しました。ご講演では、医薬品の副作用被害(致死性のもの)をクリントン大統領時代の米国のデータを例に「体

吸収され(まだからだの外?) 肝臓(体の中)に入り、心臓(血液を通じ)で全身を循環するが、薬が心臓まで入るのは僅かで、大半は肝臓で分解され排出されること

患者に対して薬剤についての説明が十分になされると同時に、他に薬を飲んでいる場合は医師や薬剤師に伝えること。いくつかの薬をまとめて飲むと毒性が発現(副作用)する場合がありますので注意が必要である。一方、薬が不要になつた場合、焼却処分はよいが、流しに捨ててはいけない。「環境問題」となるご教えました(本号八

ページ参照)。

第二十三回 ゴルフ・懇親会

平成二十一年十月十四日(水)

三上正勝様・西村定様にお世話いただき、茨木高原カントリークラブにおいて開催しました。競技方法はダブルペリアにて行い、三上正勝様が優勝されました。おめでとうございます。

第二十回 応化会ハイキング

平成二十一年十一月十四日(土)

十五名の申し込みがありました。雨天のため、やむなく中止しました。

第二十四回 ゴルフ・懇親会

平成二十二年三月二十六日(金)



川口士郎様に幹事をお願いし、「竜王山・摂津峡」ハイキングを開催しました。JR京都線 茨木駅に集合。JR茨木駅前から阪急バスに乗車し忍頂寺バス停下車。↓忍頂寺↓竜王山展望台↓竜仙峠↓萩谷↓白滝↓塚脇↓塚脇バス停(高槻市バス)↓高槻駅北のコース。その後は、安くて美味しい店で懇親会。次回は十一月以降に実施される予定です。

第二回 釣り天狗クラブ

平成二十二年九月十二日(日)

目片秀明様に準備いただき、田尻海洋交流センターにて開催されました。七名の参加があり、目標は鯛釣りに上り、サザエ、ホタテなどのパーベキューで大変盛り上がったそうです。



お礼

二期(六年)務めました企画運営委員長を伴野清様(昭和四十二年卒)にバトンタッチします。先生方をはじめ皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。

応化会温泉研究会

創立総会のご案内

木村碩志 (昭和二十七年卒)

仲秋の候 会員の皆様には益々ご隆盛の段お喜び申し上げます。

さて、かねて計画致しておりました、温泉研究会創立総会を行うことになりましたので、奮ってご参加賜りますようお願い申し上げます。

すでに、応化会ニューズ前号に同封のアンケートで登録いただきました皆様には事務局よりご案内いたします。温泉に浸かり、会員の皆様と旧交を温めて頂きたいと存じます。

記

日時 平成二十二年

十一月二十四日(水)

十一月二十五日(木)

十六時集合

場所 かんぼの宿有馬(有馬温泉)

〇七八(九〇四)〇九五

*神戸電鉄有馬温泉下車

ループバス乗車約七分で虫地獄下車

入浴 十六時

総会 十七時三十分(大広間)

*発起人世話人挨拶

*今後の運営及び次回予定

講演 「温泉の話」 岡山の温泉へ

岡山理科大名誉教授

石井 猛氏

懇親会 十九時~二十一時(泊)

*朝食後自由解散

参加費用 一万五千元+飲料代

新任の先生から一言

しろいわ たける
白岩 健先生



本年四月、生命科学部生命医科学科に助教として赴任させていただきました。専門は医療経済学や生物統計学です。立命館大学では医療政策・管理学研究室で、医療の経済評価やQOL (Quality of Life) 評価などアウトカムズリサーチと呼ばれる分野の研究をさせていただき予定です。日本ではまだまだ未熟な研究領域ですので、みなさまのご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

略歴 二〇〇五年三月 東京大学薬学部薬学科卒業。二〇一〇年三月 東京大学大学院薬学系研究科生命薬学専攻博士後期課程修了博士(薬学)。二〇一〇年四月 立命館大学生命科学部生命医科学科助教。

おかのともぶ
岡野友信先生



本年度より、薬学部にて教授としてお世話になることになりました。主な研究は「生体膜における栄養物質や薬物の輸送」です。大学病院で薬事掛と

して、大学からの受託実習生や研修生の受入れを担当しておりました。今後は逆の立場で、病院薬剤師会での人との交流や中小病院における経験を、これから卒業する本学学生のために役立てたいと考えております。ご指導よろしく申し上げます。

略歴 一九七九年三月 京都薬科大学卒業。同七月 薬剤師免許取得。一九八九年一月 京都大学医学博士。一九八七年四月～二〇〇二年四月 京都大学医学部附属病院薬剤部 文部科学技官(薬剤師)。一九九六年四月～二〇〇二年四月 京都府病院薬剤師会 総務。二〇〇二年五月 水口病院 薬局長。二〇〇五年七月 三幸会 第二北山病院 薬剤部長。二〇一〇年四月 三幸会 顧問。二〇一〇年四月 本学着任。

かくもと みきお
角本幹夫先生



本年四月、薬学部にて准教授として着任させていただきました。専門は医療薬学分野、特に医薬品の適正使用をテーマに取り組んできました。これまでに培ってきた経験をもとに、本学薬学部の教育・研究に貢献させていただけたらと考えています。皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

略歴 一九九六年三月 岐阜薬科大学卒業。薬剤師免許取得。一九九八年三月 岐阜薬科大学大学院修士課程修了。一九九八年四月 神戸大学病院薬剤部。二〇〇九年一月 同副薬剤部長。二〇〇七年十月 トロント小児病院 訪問研究員(二〇〇八年三月まで)。二〇一〇年四月 本学着任 博士(薬学)。

かわの たかこ
河野貴子先生



本年四月より薬学部薬学科に助教としてお世話になっております。専門分野は細胞生物学ですが、コンピュータシミュレーションなどの理論的な解析に興味をもっています。今後は実験とコンピュータシミュレーションなどを組み合わせて細胞機能の制御メカニズムを解析するシステム生物学分野の研究に取り組んでいきたいと考えています。皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

略歴 一九九八年 京都薬科大学薬学部生物薬学科卒業。薬剤師免許取得。二〇〇〇年 奈良先端科学技術大学院大学 博士前期課程修了。二〇〇四年 同博士後期課程修了 博士(バイオサイエンス)。日本学術振興会特別研究員、名古屋大学医学系研究科二十一世紀COE研究員、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科融合領域プロジェクト研究員、奈良女子大学大学院人間文化研究科博士研究員などを経て二〇一〇年四月本学に着任。

とみやま なおき
富山直樹先生



本年四月より薬学部にて助教としてお世話になっております。専門は臨床薬学で、臨床における医薬品の適正使用に関する研究をしています。また、大

学院修士課程を修了して七年間、長崎大学医学部附属病院に薬剤師として勤務してまいりました。この経験を生かして研究だけでなく、薬学部で学ぶ学生に対する教育に大いに力を注ぎたいと思います。皆様からのご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

略歴 一九九七年三月 長崎大学大学院薬学研究科 博士課程前期課程修了。一九九七年四月 長崎大学医学部附属病院薬剤部勤務。二〇〇七年三月 武庫川女子大学大学院薬学研究科博士課程後期課程満期退学。二〇〇七年四月 武庫川女子大学薬学部助手。二〇〇九年四月 城西国際大学薬学部助教。二〇一〇年四月 本学着任。

ふじた たかし
藤田隆司先生



本年四月より薬学部薬学科の准教授として、分子薬効毒性学研究室を担当しております。専門は、生化学、薬理学、毒性学です。特に、内分泌にもっとも興味を持って研究をしています。新設の薬学部で人材育成に力を注ぎ、望まれる社会人をたくさん育てたいと思います。薬学部の発展に貢献できるよう、研究・教育に一層努力する所存です。皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴 一九九六年三月 徳島大学薬学部卒業。薬剤師免許取得。一九九八年三月 大阪大学薬学研究科修了。二〇〇三年 薬学博士(大阪大学)。摂南大学薬学部助手、学術振興会特別研究員、長崎大学医歯薬学総合研究科助教を経て二〇一〇年四月より本学着任。

応化会役員名簿変更箇所
(敬称略)

追加

名誉会員

吉田 真 (昭和52年着任)

変更

副会長

退任

荒木 武彦 (昭和43年卒)

篠原 長政 (昭和43年卒)

新任

金川 義孝 (昭和39年卒)

伴野 清 (昭和42年卒)

会計監査

退任

岡本 朗 (昭和32年卒)

新任

荒木 武彦 (昭和43年卒)

常任幹事

退任

金川 義孝 (昭和39年卒)

新任

西原 義孝 (昭和41年卒)

篠原 長政 (昭和43年卒)

城戸 正憲 (昭和46年卒)

企画運営委員長

退任

篠原 長政 (昭和43年卒)

新任

伴野 清 (昭和42年卒)

地域別活動推進委員長

退任

荒木 武彦 (昭和43年卒)

新任

未定

年度幹事

退任

新谷 利保 (昭和18年卒)

宇野 光造 (昭和27年卒)

物故者

平成21年9月1日から平成22年8月31日の間に、死亡のご連絡を頂いた方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

新谷 利保 (昭和18年卒)	宇野 芳三 (昭和26年卒)
中江 滉直 (昭和18年卒)	野村 要 (昭和26年卒)
吉田 小三郎 (昭和18年卒)	宇野 光造 (昭和27年卒)
神田 克孝 (昭和19年卒)	西川 泰治 (昭和27年卒)
熊本 寛司 (昭和19年卒)	荒谷 芳彦 (昭和28年卒)
福井 明 (昭和20年卒)	磯松 良純 (昭和28年卒)
村島 修蔵 (昭和20年卒)	高橋 義弘 (昭和28年卒)
後 栄治 (昭和20年卒)	服部 敏郎 (昭和28年卒)
伊藤 定雄 (昭和22年卒)	平野 勤 (昭和28年卒)
米島 忍 (昭和22年卒)	松元 正行 (昭和28年卒)
伊藤 守助 (昭和22年卒)	山本 平一 (昭和28年卒)
瓜生 嘉英 (昭和23年卒)	池知 孝博 (昭和31年卒)
松原 保 (昭和23年卒)	西田 忠夫 (昭和31年卒)
浅井 史朗 (昭和23年卒)	古川 滉 (昭和31年卒)
隠岐 勇 (昭和23年卒)	河合 忠司 (昭和32年卒)
桑山 育三 (昭和23年卒)	古川 昌次 (昭和33年卒)
諏訪 好孝 (昭和23年卒)	江種 秀郎 (昭和34年卒)
峰村 茂樹 (昭和23年卒)	本山 高志 (昭和34年卒)
今井 謙造 (昭和24年卒)	丸岡 謙男 (昭和34年卒)
西村 敏次 (昭和24年卒)	石丸 明宏 (昭和39年卒)
上野重治郎 (昭和24年卒)	田中 邦彦 (昭和40年卒)
岡村 正弥 (昭和24年卒)	古本 拓雄 (昭和43年卒)
谷村 新平 (昭和24年卒)	北岡 洋一 (昭和44年卒)
山原 明 (昭和24年卒)	鎌田 喜照 (昭和48年卒)
水谷 英一 (昭和25年卒)	黒原 隆行 (昭和50年卒)
加藤 修 (昭和25年卒)	柳本 茂雄 (平成15年卒)
松本 明光 (昭和25年卒)	

(敬称略)

今中忠行先生 (生命科学部 生物工学科教授) が

「紫綬褒章」を受章

事務局だより

今年の春、今中忠行先生が「微生物工学」のご業績により紫綬褒章を受章されました。先生は、微生物工学の分野において、独自のアイデアでタンパク質安定化の新しい原理を発見するとともに、超好熱始原菌が有する多数の新規酵素・代謝経路を解明するなど先駆的な業績を挙げられました。また、超好熱始原菌株と菌由来酵素の有用性を見出し、極限環境微生物学の進展と応用に多大に貢献されました。

- 校友の仲間同志や家族で母校を訪ねた際の待ち合わせやおくつろぎの場として各キャンパス内に「校友サロン」が左記の通り設置されましたので、ご利用下さい。
- (1) 衣笠キャンパス 国際平和ミュージアムロビー (一階、二階)
 - (2) びわこ・くさつキャンパス (BKC)
 - (3) 朱雀キャンパス コアステーション三階ラウンジ
- (校友会事務局所在地) 六階校友ロビー

編集後記

バンクーバーオリンピック、サッカーワールドカップ、上海万博開催、ハイチ・チリ大地震、口蹄疫、梅雨による深層崩壊発生の中で。大学はホームカミングデー(六月六日)を衣笠・BKCで開催。今中先生が紫綬褒章を受章され、おめでとうございます。応化会は節目の第十

回総会を迎え、北尾会長の下、生命科学部・薬学部の新同窓会への合流を目指し歩み始めます。企画行事に温泉研究会が新たに発足しました。奮ってご参加下さい。これからも同窓会活動が発展充実に向けて力強く前進するように、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(金川)

2009年度(平成21年度) 応化会事業報告

I. 諸事業

1) 2009年3月卒業生名簿作成	2009年 5月～
2) 在校生ソフトボール大会	2009年10月18日
3) 応化会ニュース(第27号)発行	2009年11月
4) 全会員への通信、会費請求	2009年11月
5) 卒業記念パーティー	2010年 3月22日
6) ゴルフ懇親会の開催	
・第23回	2009年10月14日
・第24回	2010年 3月26日
7) 応化会ハイキングの開催	
・第19回	2009年 5月24日
8) 釣り天狗クラブ	
・第1回	2009年 4月12日
9) 健康セミナー	
・第4回	2010年 2月21日

II. 諸会議

1) 幹事会	
・第1回	2009年 6月21日
・第2回	2010年 2月21日
2) 企画運営委員会	
・第1回	2009年 9月26日
3) 応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2009年 6月21日
・第2回	2009年 9月 5日

III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)

関東支部幹事会	
・第1回	2009年10月26日
・第2回	2010年 3月10日

2009年度(平成21年度) 応化会決算

一般会計

(単位:円)

〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	4,061,879	4,061,879
会費(一般)	1,700,000	1,487,000
会費(学生)	1,860,000	1,760,000
寄付金	250,000	236,944
雑収入	5,000	479
合計	7,876,879	7,546,302

〈支出の部〉	予算額	執行額
総会開催費	0	0
事業等補助金	200,000	74,695
地域別活動推進費	700,000	100,000
会議費	200,000	86,718
印刷費	400,000	443,305
郵送費	800,000	953,664
人件費	500,000	497,200
事務局費	50,000	51,599
雑費	100,000	18,000
拠出金(特別会計へ)	1,000,000	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	80,000
在学生活動援助費	200,000	200,000
振込手数料	100,000	67,610
予備費	3,526,879	0
合計	7,876,879	3,572,791

次年度繰越金 3,973,511

特別会計

〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	3,247,786	3,247,786
拠出金	1,000,000	1,000,000
雑収入	1,000	1
合計	4,248,786	4,247,787

〈支出の部〉	予算額	執行額
人件費	500,000	195,100
事務局費	200,000	126,409
予備費	3,548,786	0
合計	4,248,786	321,509

次年度繰越金 3,926,278

2010年度(平成22年度) 応化会事業計画

I. 諸事業

1) 2010年3月卒業生名簿作成	2010年 5月～
2) 第10回総会	2010年 6月27日
3) 在校生ソフトボール大会	2010年11月
4) 応化会ニュース(第28号)発行	2010年11月
5) 全会員への通信、会費請求	2010年11月
6) 卒業記念パーティー	2011年 3月21日
7) ゴルフ懇親会の開催	
・第25回	2010年10月15日
・第26回	未定
8) 応化会ハイキングの開催	
・第20回	2010年 4月17日
・第21回	未定
9) 釣り天狗クラブ	
・第2回	2010年 9月12日
10) 温泉研究会	
・第1回	2010年11月24日
11) 健康セミナー	
・第5回	未定

II. 諸会議

1) 幹事会	
・第1回	2010年 4月18日
・第2回	未定
2) 企画運営委員会	
・第1回	未定
・第2回	未定
3) 応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2010年 5月29日
・第2回	2010年 9月 5日
4) 地域別活動推進委員会	未定
5) 名簿管理委員会	未定

III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)

関東支部幹事会	
・第1回	2010年 7月15日

2010年度(平成22年度) 応化会予算

一般会計

(単位:円)

〈収入の部〉	予算額
前年度繰越金	3,973,431
会費(一般)	1,500,000
会費(学生)	1,670,000
寄付金	250,000
雑収入	5,000
合計	7,398,431

〈支出の部〉	予算額
総会開催費	1,000,000
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	300,000
会議費	200,000
印刷費	400,000
郵送費	800,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	2,448,431
合計	7,398,431

特別会計

〈収入の部〉	予算額
前年度繰越金	3,926,278
拠出金	1,000,000
雑収入	1,000
合計	4,927,278

〈支出の部〉	予算額
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	4,227,278
合計	4,927,278